

風景を水彩で描いてみよう！ part.1

*小、中学校で風景画は1回は取り組む題材です。「難しい。」と感じてしまいがちですが、自分が「ここを描きたい！」という強い思いをもって、時間をかけて、丁寧に取り組みれば、きっと描けると思います。今回は風景の描き方を勉強してみましょう。



県立総合教育センターの建物です。



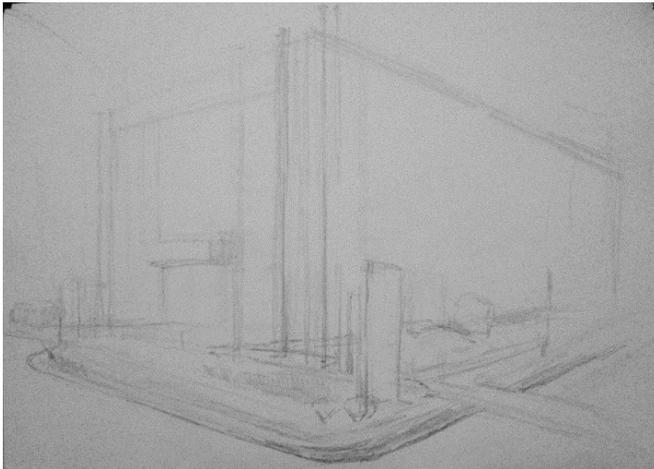
- ①構図（画面への対象物の入れ方）を決める。この時、自分の作品の完成図をイメージします。
○物、風景など描く時など、全てに応用が効きます。



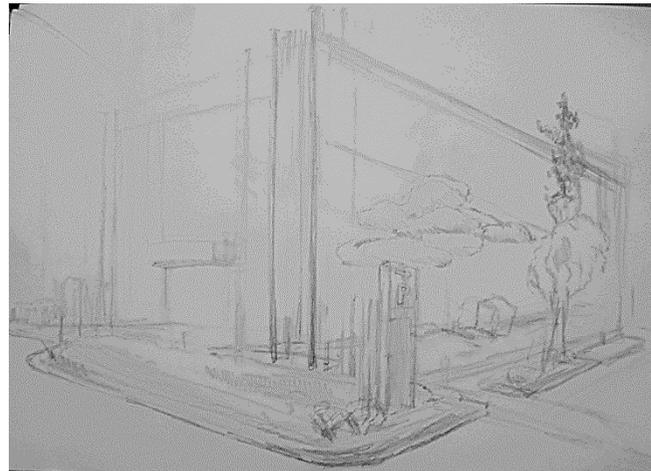
- ①描く前に画面の中心を決めます。（対角線を引き、交った所が中心）描く対象物が縦に長い場合は、画用紙は縦に、横の広がり表現したい場合は画用紙を横向きにして描きません。



- ②描くもののりんかく線（物を形作っているいちばん外側の線）を薄くおおまかに描きます。
*大きく描きます。また、構図（画用紙への物の入れ方）を確認するために、絵から離れて観察します。この時、間違っていれば直します。



- ③不必要な線を全部消し、よく実物を見て、自分の絵の形と確かめる。中心線など確認する上で、じゃまになるので消す。

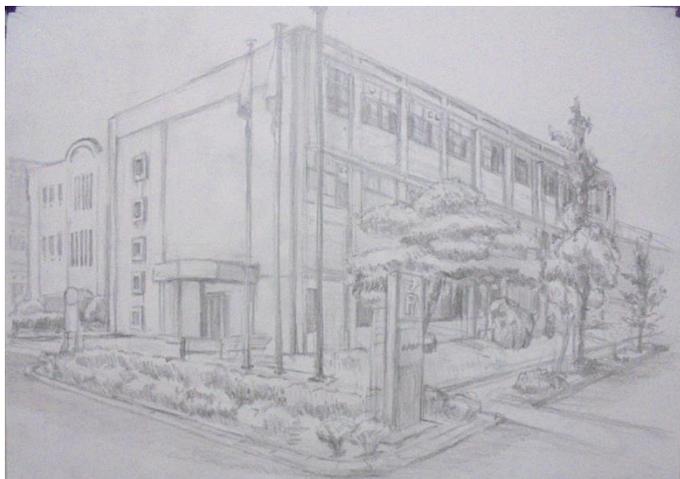


- ④よく見て、目立つ物（目印となる物）から描いていきます。（手前の花壇、P[パーキングの案内板]、右側の木、大きな石等の位置を確認しながら描く。）（やや、薄く描いているのは、間違った時に消しゴム等で訂正しても画用紙を傷めないため）



- ⑤よく見て、左奥の遠景等を描いています。描き進んでいますが、右側面は、この段階では陰だけ描いています。（しかし、窓等のものを描かないと、いつまでたっても完成せず、建物に迫っていく表現にはなりません。）

風景を水彩で描いてみよう！ part.2



⑥右側面の窓等を描きました。下描き完成まで、あと一歩です。



⑦下描き完成です。左絵と比べ、何が異なるか分かりますか？手前の花壇を、もう少し描きこんでいますし、右手前の通路の石畳のような質感を描いています。



⑨明るい暖色系の色から下描きが透けるように、うすく塗ります。（手前の花壇の土の黄土色から塗っています。）基本的に色は混色して塗ります。



⑩明るい暖色系の色から下描きが透けるように、うすく塗り続けます。（手前の花壇の植え込み、右下の芝生の黄緑色を塗ります。）

⑧水彩絵の具による着彩開始です。道具は、主に筆3種類、パレット[暖色系、寒色系と2つに分けていますが、パレットは通常1つ]です。



平筆

彩色筆

面相筆

パレット



暖色系

寒色系



⑪暖色系の色を下描きが透けるように、うすく塗り続けます。（建物の、左右側壁面のクリーム色を塗ります。）

風景を水彩で描いてみよう！ part.3



⑫ 寒色系の色を塗ります。(空の右上、建物左側のヒサンを薄い水色で塗ります。)



⑬ 寒色系の色を塗りながら、全体の色のバランスを考えながら調整して塗ります。(手前 P[パーキング]の案内板の青]を薄い青、手前の植え込みのツツジのピンク色を塗ります。)



⑭ 微妙に変化する色味(ここは、このような色に見える)を感じながら全体に調整して塗り重ねて完成です。(色は塗り重ねれば重ねるほど、黒色に近づき(濁り)画面は重くなり重厚感が増します。)

最後に・・・

風景画を描く(制作する)時のポイントは・・・

- ① 描く前に対象物をよく見て特徴を理解する。
- ② 自分の作品の完成図を常にイメージする。
- ③ 仮に写真を参考にして描く場合は、その場所にいるつもりで、「自分が、その風景の何を、どのように表現したいのか」を確認しながら制作する。

です。

目の前にある風景に迫るように表現するには、多少なりとも時間がかかります。「早く完成させよう。」という気持ちで焦って取り組めば、絵は雑になり、自分の予想した仕上がりになりにくく、そのような作品を大切にする気持ちも薄くなると思います。画面全体を常に冷静に見つめ、途中であきらめずに、他人と比較することなく、自分自身を見つめて粘り強く表現することです。そうすれば自分が満足する風景画が完成するかもしれません。最近では、万人が気に入った風景等の写真を気軽に撮ってすぐに保存ができる世の中ですが、「風景を描く」となると、間違いなく一生の中で、数回しか取り組む機会はないと思います。(特別に勉強する人を除く。)その機会を大切に、ぜひ、自分だけの表現で自分だけの風景を完成させてください。